

表2-1 各推意の当てはまる度合の評定値

	性別	平均値	標準偏差
A1	男	2.77	1.03
	女	2.74	0.94
A2	男	2.42	0.84
	女	2.44	0.89
B1	男	2.55	0.91
	女	2.76	0.98
B2	男	2.45	1.14
	女	2.56	1.13
C1	男	3.58	1.42
	女	3.83	1.42
C2	男	3.25	1.53
	女	3.33	1.33
D1	男	3.17	1.28
	女	3.40	1.14
D2	男	3.08	1.34
	女	2.98	1.19

A1 ヒトの精子数減少の原因の一部は、内分泌攪乱物質が引き起こしている。

A2 内分泌攪乱物質は、何らかの形で精子数減少に影響している。

B1 ある種の化学物質は子宮内膜症を引き起こす。

B2 研究が進めば、ある種の化学物質が子宮内膜症を引き起こすことが証明されるだろう。

C1 内分泌攪乱物質が子宮体ガンに影響する。

C2 将来データが増えれば、内分泌攪乱物質が子宮体ガンを引き起こすことが立証される。

D1 内分泌攪乱物質は、思春期の人たちの健康に害を与える。

D2 思春期を過ぎてしまえば、内分泌攪乱物質の影響はなくなる。

*7段階尺度(1-7). 数値が小さいほど推意が当てはまる。

表2-2 環境問題への関心

環境	性別	平均値	標準偏差
環境	男	2.70	1.42
	女	2.84	1.16
リサイクル	男	4.09	1.63
	女	4.06	1.34
食品	男	4.87	1.73
	女	3.96	1.70

表2-3 内分泌攪乱物質の知識

	知っていた*	名称のみ*	知らなかった*	被験者数
男	16.98	32.08	50.94	53
女	15.60	29.36	55.05	109
合計	16.05	30.25	53.70	162

*数字は%

図3-1-1 話し手の能力

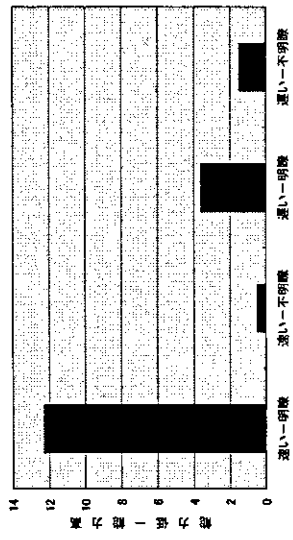


図3-2 わかりやすさ

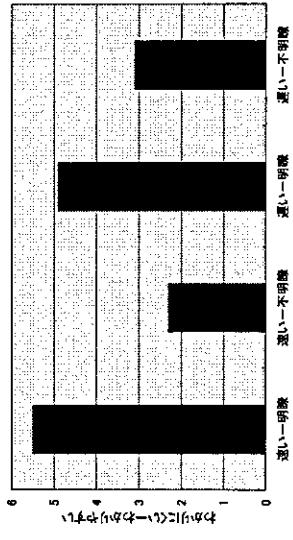
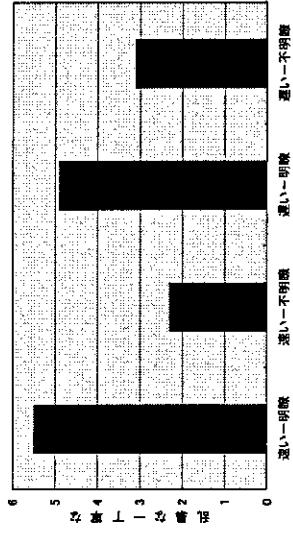


図3-3 丁寧さ



厚生労働科学研究費補助金（化学物質リスク研究事業）

分担研究報告書

内分泌攪乱物質のリスクコミュニケーションに関する研究

内分泌攪乱物質のリスク情報開示とコミュニケーション対応

分担研究者 杉本徹雄 上智大学経済学部教授

研究協力者 上妻義直 上智大学経済学部教授

研究協力者 花尾由香里 東京富士大学経営学部講師

研究要旨

本研究では、まず、内分泌攪乱物質に関する情報や問題点を市民や学生に提示し、内分泌攪乱物質に対する認知や理解の程度、問題意識の構造、リスクコミュニケーションの手段や方法について検証した。その結果、わかりやすく、誤解されにくい表現で、積極的な情報開示に対する要望が強く、リーフレットをはじめ、マスメディアを含め、適切な効果的なメディア・ミックスが必要とされることが明らかとなった。さらに、企業の環境報告書についても分析を行ったところ、ダイオキシン類に関するリスク情報が環境報告書に開示される場合の開示促進要因を予備的に調査しており、環境報告ガイドラインが開示促進に一定の役割を果たしているという示唆が得られた。

研究 1

A.研究目的

これまで、われわれの研究では、質問紙調査法によるデータだけでは補足できない質的な情報を収集することを目的として、グループインタビュー（集団面接法）による消費者の内分泌攪乱物質に対するリスク認知に関するデータを収集し、分析を行ってきた。

本研究では、昨年度までの研究をもとに、内分泌攪乱物質のリスクコミュニケーションの方法と手段を試作し、内分泌攪乱物質に関する講義を受講してもらったあとで、消費者の内分泌攪

乱物質に対する認知や態度にどのような影響が見られるのか面接聴取を行なった。同時に、内分泌攪乱物質に関するリーフレットを試作し、それに対する感想や意見を聴取した。

一昨年度のグループ・インタビューでは、一般の男女社会人に対して行なった。昨年度のグループ・インタビューでは、乳幼児の子供をもつ母親に対して行なった。内分泌攪乱物質の危険性は、とりわけ、胎児や乳児などへの影響が大きいことが懸念されている。

本研究では、乳幼児の子供をもつ母親に対して、再度、グループ・インタビューを行なうとともに、これまで対

象とはしてこなかった 50 歳以上の男女に対しても面接聴取を行なった。50 歳以上の男女を対象とした理由は、乳幼児の孫をもつ祖父母である可能性が高いことと、幅広い消費者層の内分泌攪乱物質に対するリスク認知を調査するためである。

B. 研究方法

< 面接対象者 >

1. 乳幼児の母親グループ

2005 年 2 月 23 日（水）に東京都で実施した。調査対象者は、東京都に在住の 6 歳未満の子供がいる母親 6 名である。調査対象者の特性は、A さん（31 歳）子供二人（4 歳、7 歳）、B さん（42 歳）子供三人（5 歳、14 歳、21 歳）、C さん（34 歳）子供二人（5 歳、7 歳）、D さん（31 歳）子供一人（5 歳）、E さん（36 歳）子供二人（2 歳、5 歳）F さん（32 歳）子供二人（1 歳、5 歳）である。

2. 50 歳以上の男女グループ

2005 年 2 月 24 日（木）に東京都で実施した。調査対象者は、東京都に在住の 50 歳以上男女 6 名である。調査対象者の特性は、A さん（58 歳、男性）子供二人（31 歳、33 歳）孫二人（5 歳、7 歳）、B さん（62 歳、男性）子供二人（27 歳：妊娠中、32 歳）、C さん（63 歳、女性）子供二人（36 歳、40 歳）D さん（63 歳、女性）子供なし、E さん（59 歳、女性）子供二人（31 歳、33 歳）孫二人（5 歳、7 歳）、F さん（63 歳、女性）子供二人（27 歳：

妊娠中、32 歳）である。

なお、両グループともインタビュー時間は、120 分程度である。

< インタビューのフロー >

1. イントロダクション

1) グループ・インタビュー趣旨の説明

「本日は、『内分泌攪乱物質のリスクコミュニケーション』というテーマで座談会を開催いたしました。まず、はじめに『内分泌攪乱物質のリスクコミュニケーション』についてのお話を聞いていただき、その後、皆様が、内分泌攪乱物質に対してどのような印象や感想をもたれたか、内分泌攪乱物質のリスクコミュニケーションの方法や情報伝達の手段などについてどのような方法が効果的であると思うか、などについて率直なご意見を伺いたいと思います。」司会者の紹介、話し合いのルール説明、研究のために録音させてもらうことを説明し了承してもらう。

2) 自己紹介

「最初に自己紹介をお願いします。」内容は、氏名、居住地域、母親の年齢、子供の人数と年齢、孫の人数と年齢などである。

2. 「内分泌攪乱物質のリスクコミュニケーション」についての講義

「内分泌攪乱物質のリスクコミュニケーション」という題名で内分泌攪乱物質に関する講義を行った。講義内容は、「環境ホルモン」という言葉の由来、内分泌攪乱物質の概念、内分泌攪乱物

質問題の発端、内分泌器官とホルモンの働き、内分泌攪乱物質について懸念されていること、内分泌攪乱物質に関するマスコミ報道の経緯、内分泌攪乱物質に対する消費者の認知、今後の検討課題などである。講義時間は、約 60 分である。

3. 「内分泌攪乱物質」に対する認知

「環境ホルモン」「内分泌攪乱物質」という言葉について以前から知っていたのか、内分泌攪乱物質問題についての知識や情報をどの程度持っていたのか、日常の生活において「内分泌攪乱物質」を意識して以前から行動に移していたことはあるかをたずねた。

1) 「環境ホルモン」という言葉の認知

『環境ホルモン』という言葉を知ったことがありますか。お聞きになったことがある場合、どこで、どのような形でお聞きになったか教えてください。」

2) 「内分泌攪乱物質」という言葉の認知

『内分泌攪乱物質』という言葉を知ったことがありますか。お聞きになったことがある場合、どこで、どのような形でお聞きになったか教えてください。」

3) 内分泌攪乱物質問題に対する認知

「内分泌攪乱物質問題、環境ホルモン問題について、これまでにどのような内容の情報を聞いたことがありますか。お聞きになったことがある場合、どこで、どのような形でお聞きになっ

たか教えてください。」

4) 内分泌攪乱物質を意識しての行動

「内分泌攪乱物質や環境ホルモンを意識して、何か行動に移していたこと、気をつけていたことはありますか。」

4. 「内分泌攪乱物質」の情報開示に対する意見

「内分泌攪乱物質」の情報について、どのような内容の情報をどの程度詳しく提供してほしいと思うか、講義を聞いてどのような感想をもったか聞いた。

1) 「内分泌攪乱物質」の情報提供の仕方に関する意見

「内分泌攪乱物質については、現段階では、まだ科学的に解明されていないことが多いとされています。科学的に解明されていない問題であっても、今後、積極的に情報を提供してほしいと思いますか。」

2) 「内分泌攪乱物質」の情報開示の内容についての意見

「講義を聞いて、特に、気になった部分やもっと詳しく知りたいと思った部分がありますか。」「今後、どのような情報について詳しく提供してほしいと思いますか。」「『内分泌攪乱物質』に関する科学的なメカニズムについての情報は、今後、詳しく提供してほしいと思いますか。」「マスコミ報道の流れや消費者調査の結果についての情報は提供してほしいと思いますか。」「『内分泌攪乱物質』に対する海外での取り組みや研究状況に関する情報は知らせてほしいと思いますか。」

5. 情報開示のメディア選択についての意見と情報入手の経路

『『内分泌攪乱物質』に関する情報提供を行なっていく場合、どのようなメディアを利用することが望ましいと思いますか。』『普段、環境や健康に関する情報は、どのような形で入手していることが多いですか。』

6. 講義受講後の認知変化と重要性についての認識

『『内分泌攪乱物質のリスクコミュニケーション』の講義を聞く前と聞いた後では、内分泌攪乱物質に対する考え方は変わりましたか。』『他の環境問題や社会問題と比べて、内分泌攪乱物質問題の重要性は高いと思いますか。他にもっと重要な問題があると思う場合、どのような問題の重要性が高いと思いますか。』

7. リーフレットに関する意見

「これは、内分泌攪乱物質に関するリーフレットの試作品です。(各対象者に1部ずつ手渡す)このリーフレットを見て、感じたことを率直にお話ください。』『リーフレットの中で使用されている言葉に、意味のわからないものや表現の仕方についてお気づきになった点がありましたら教えてください。』『Q&Aの部分に関して、お気づきになった点がありましたら教えてください。』『今後、パンフレットを消費者の皆さんに配布していく場合に、どのような方法が望ましいと思いますか。』

8. 行政や研究機関に対する要望

「最後に、『内分泌攪乱物質』に関して、行政や研究機関に対する要望がございましたら、ご意見を聞かせてください。」

C.結果と考察

2005年2月23日(水)に幼児の子供を持つ母親を対象として実施したグループ・インタビューの結果は、以下の通りである。

1. 「内分泌攪乱物質」に関する認知

Q1.「環境ホルモン」という言葉を以前から知っていたか。

(全員)知っていた。

Q2.「内分泌攪乱物質」という言葉を以前から知っていたか。

(全員)知らなかった。

Q3.「環境ホルモン」という言葉は、どこで聞いたか。

- ・ テレビのニュース
- ・ テレビのワイドショー

Q4.「環境ホルモン」について、どのような内容の情報を聞いたことがあるか。

- ・ ダイオキシンについて聞いたことがある。
- ・ 子供のおもちゃが危ない、ビニール製のおもちゃが木製のものに変ってきている。

Q5.カップめんについての報道は、聞

いたことがあるか。

- ・ 聞いたことがない (4人)
- ・ カップめんの中身が問題だと思っていた。
- ・ 将来的に、子供に影響を及ぼすということは聞いたことがある。

Q6.環境ホルモンを意識して、以前から気をつけていたことはあるか。

- ・ 何も気をつけていなかった。別にいいと思う。
- ・ 何も考えていない。
- ・ 変な臭いのするものは、気をつけていた。ビニール臭いものは避けていた。
- ・ 自分はあまり気をつけていないが、祖母が気をつけている。
- ・ 木製のおもちゃなどは、汚れがしみこんでしまったり、逆に、衛生的でないというイメージがある。
- ・ 口に入れなければ、ある程度は安全
- ・ 石油系でできているものは、害があると思ってしまう。
- ・ 誰に聞いたらいいいのか分からないので、自分で判断するしかない。

Q7.ゴミの分別は気をつけているか。

- ・ ほぼ完璧に分別している。90%位の割合で分別している。(1人)
- ・ 時々しないことがある。70~80%の割合で分別している。(3人)
- ・ たまにやる程度、適当である。50%位の割合で分別している。(2人)
- ・ 子供が燃えるか燃えないか、ゴミの分別の仕方について聞いてくる

ことがある。

「環境ホルモン」という言葉の認知率は高いようであるが、「内分泌攪乱物質」という言葉の認知率は低いことがわかった。「内分泌攪乱物質」問題の内容に関しては、ダイオキシンやビニール製のおもちゃの危険性について聞いたことがあると回答する人が少数いたが、ほとんどの人は、詳しい内容について聞いたことがないようである。

「内分泌攪乱物質」に関する情報は、断片的知っていることが多く、それらの情報を入手した経路についても記憶があいまいであることが多いようである。テレビのニュースやワイドショーから入手したのではないかということであった。

現状としては、「内分泌攪乱物質」に対する正確な認知が形成されているとは考えることが難しく、「内分泌攪乱物質」を意識した対処行動もほとんど行なわれていないと考えられる。

2. 「内分泌攪乱物質」の情報開示に対する意見

Q8.科学的に解明されていない問題であっても、情報を提供してほしいか。

- ・ どのくらいまで解明できているのか、今は、どういう状態なのかを知らせてほしい。
- ・ 経過を知らせてほしい。
- ・ 経過について細かく。
- ・ どの物質が疑われているのかということは、知らせてほしい。
- ・ 疑われている物質を知らせてくれ

れば、自分の判断で、そのような物質が入っている商品避けることができる。

- ・ 「危ない」という言い方をするのではなく、言葉に気をつけて知らせしてほしい。
- ・ 本当に危険性を証明するのは、不可能だと思う。人体実験をしなければ、最終的には、証明はできないと思うし、動物実験は縮小の傾向にあるので、はっきりとした情報を与えることはそもそも不可能なのではないか。

Q9. 今後、どのような情報を詳しく提供してほしいか。

- ・ 口に入れるものの安全性について。
- ・ 解明はされていなくても、もしかしたら、何らかの病気に関連している可能性があるということは伝えてほしい。
- ・ 危なくないなら危なくないという情報を提供してほしい。
- ・ 的確な情報であれば、いくらでもほしい。
- ・ 情報は提供して、あとは見る側の選択。
- ・ モラルのある情報を提供してほしい（情報操作しないでほしい）。

Q10. 講義の中で、気になった部分はあるか。

- ・ 環境ホルモン物質が、こんなにたくさん種類物質が疑われているとは思わなかった。
- ・ 病気との関連性について（子宮内

膜症やキレやすいということと関連があるのかどうか）。

- ・ イソフラボンが疑われていることについて（自然のものでも、大量に取ってしまうと悪影響があるのかもしれないと思った）。

Q11. 科学的なメカニズムについての情報は提供してほしいか。

- ・ わかりやすく、専門用語などを使わずに説明してほしい。
- ・ 映像などを使って、子供にもわかりやすいように。
- ・ カタカナが使われるとわかりにくい。
- ・ NHKの「子供ニュース」のように、難しいこともわかりやすく提供してほしい。
- ・ 言葉でいわれてもよくわからない。映像を取り入れてほしい
- ・ お笑いなども取り入れてほしい。

Q12. マスコミ報道の流れや消費者調査の結果についての情報は提供してほしいか。

- ・ 他のお母さん方がどう考えているかというのは、気になる。
- ・ 調査といっても、全国的に、何千人、何万人という調査でない信用度に欠ける。
- ・ 日本だけではなく、世界的な調査結果を知らせてほしい。

Q13. 海外での取り組みや研究状況に関する情報は知らせてほしいか。

- ・ あってもいいけど、それほど興味

はない

- ・ 海外は、ゴミの分別がしっかりしているというから、そういう取り組みについての情報は知らせてほしい。

誤解のない表現で正確な情報であれば、どのような情報であっても提供してほしいということである。特に、科学的な解明がどの程度進んでいるのか、経過や現在の研究状況について詳しく情報提供を行なってほしいということである。他に望まれる情報としては、病気との関連性や疑われている物質名、身近な商品・食品の安全性についての情報提供を望んでいる人が多かった。表現方法については、専門用語をなるべく使わずに、わかりやすい言葉で情報提供してほしいという意見が多かった。

3. 情報開示のメディア選択についての意見と情報入手の経路

Q14. 「内分泌攪乱物質」に関する情報提供を行なっていく場合、どのようなメディアが望ましいと思うか。

- ・ テレビで知らせてほしい（ほぼ全員）
- ・ 確実に、全員に知らせるならテレビがいいと思う。
- ・ ラジオも使えばいいと思う。（ラジオを普段から聞く人=2人。一緒に住んでいる祖母や祖父が、ラジオをよく聞く。）
- ・ 官公庁のパンフレットなどは、税金がかかるので要らない。

- ・ ホームページでの情報提供は、自分が興味のあるものは見るけれども、環境ホルモンについては、わざわざ見ることはないと思う。（こういうホームページがあること自体、知らない。）
- ・ 「Yahoo!」などのポータルサイトにリンクがあれば、見るかもしれない。
- ・ 区報に載っていれば、新聞に挟まってきたり、駅で配っていたりするのを見るかも知れない。
- ・ 区役所などへわざわざ取りに行くということはない。
- ・ 幼稚園などにおいてあれば、もらってくることはあるかもしれない。でも、読まないと思う。
- ・ 「ご自由にお持ちください」という形では、取ることはしないと思う。
- ・ スーパーなどの食品の横に書いてあれば、見る機会は多いと思う。
- ・ 一軒、一軒ポストに入れて行くぐらいしてほしい。見てもらえなければ、ムダになってしまう。ポストに入っていれば、ゴミにする前に一度は見る。

Q15. 普段、環境や健康に関する情報は、どこから入手しているか。

- ・ テレビ
- ・ 友人や知人から（ダイエットやサプリメント、おいしい食事に関する話をする。〇〇はいいという話は聞くが、〇〇はダメという話はあまりしない）

- ・ 電車の中吊り
- ・ 雑誌や新聞、書籍などは、ほとんど読む時間がない。
- ・ 何かを買ってまで、環境ホルモンに関する情報を入手しようとは思わない。

Q16. 普段、どのような情報番組を見ているか

- ・ 「あるある大辞典」
- ・ 「スパspa人間学」
- ・ みのもんだのお昼の番組
- ・ こういう番組の情報提供の仕方は、わかりやすい。頭に入ってくる。
- ・ NHKの大人向けの番組は、30分も見られない。

「内分泌攪乱物質」の情報提供の仕方については、大勢に知らせることができるというので、テレビを利用した方が良いのではないかという意見が多く聞かれた。しかしながら、その場合には、番組の内容をわかりやすくしたり、興味を引くような映像を取り入れたりする必要のあるということを強調している。

リーフレットを作成した場合には、内容を工夫しわかりやすくするとともに、配布の仕方にも工夫が必要であろうという意見が多かった。区報のように、一軒ずつ配るという方法を取るなど、それぞれの消費者に確実に届け、見てもらえるようにしないとムダになってしまうという意見が聞かれた。

4. 講義受講後の認知変化と重要性に

ついでに認識

Q17. 講義を聞く前と聞いた後では、「内分泌攪乱物質」に対する考え方は変わったか。

- ・ ああそうなんだと思うことが多く知れた。
- ・ これからは、ゴミの分別をきちんとしようと思う。それを再認識した。
- ・ 科学的に証明されていないということを知って、逆に安心した。
- ・ 今後、自分で情報を調べるということは、しないと思う。

Q18. 他の環境問題や社会問題と比べて、「内分泌攪乱物質」問題の重要性は高いと思うか。

- ・ それほど高くはないと思う
- ・ ゴミ処理問題や、他の環境問題ともすべてつながっていると思うので、環境ホルモン問題だけが、特別、重要だとは思わない。
- ・ 子供の暴力事件などの方が気になる。
- ・ 経済問題の方が重要

講義を聞いたことによって、不安が増したということはなかったようである。「内分泌攪乱物質」に関して、科学的に未解明なことが多いという情報は、かえって安心感が増したという意見も聞かれた。「内分泌攪乱物質」のリスク・コミュニケーションにおいて、研究経過や現状について、詳しく情報提供していくことが重要であると考えられる。

「内分泌攪乱物質」問題の重要性に

については、「内分泌攪乱物質」問題だけが、特別に重要であるという認識はないようであるが、決して、重要性が低い問題としては受け止められていない。他の環境問題とも関連しており、総合的に捉えていくことが必要なのではないかという意見が多かった。「内分泌攪乱物質」に関する情報を聞いたことによって、ゴミの分別に気をつけるなど、日常生活における行動を改めていきたいという人もいた。

5. リーフレットに関する意見

Q19.リーフレットの見た目や読みやすさについてはどう思うか。

- ・ 見た目はいいと思う。読みやすそう。
- ・ イラストがかわいい。
- ・ 体の図などが載っているのが良い。こういう図が載っていた方がわかりやすい。
- ・ カラフルでよい。
- ・ 語りかけ口調で、やわらかい表現にしてほしい。
- ・ 字が小さい。こんなにたくさん書いてあると、読んでいるうちにわからなくなる。
- ・ このパンフレットだけで理解するのは難しいと思う。映像見たり、話を聞いたりしないと理解できない。

Q20.リーフレットの内容についての意見

(表紙について)

- ・ 「内分泌攪乱物質」という漢字表

記ではなく、「内分泌攪乱物質」となっているのが良い。

- ・ 「内分泌」という言葉自体が良くわからない。難しい。
- ・ 「環境ホルモン」という言も付け加えた方がよい。「内分泌かく乱化学物質」という言葉だけでは、何のことを言っているのかわからないので、手に取らないと思う。

(1 ページについて)

- ・ 「こんなうわさが話題になりました。」という部分で、「うわさ」という言葉は使わない方がいい。「うわさ」では、信用度に欠ける。「話題になりました。」という表記でよいと思う。真実ではないことをわざわざ言う必要はない。(ここに書いてある内容自体は知らせてほしい。ニュースがあったという形で)
- ・ うわさに関する検証をしてほしい。そのうわさが本当であるのか、うそなのか、検証したものを載せてほしい。

(8 ページについて)

- ・ 「グローバルアセスメント」「リスクアセスメント」という言葉の意味がわからない。カタカナ表記はなるべく使わないようにしてほしい。

(Q&A について)

- ・ Q&A が載っているのは良い。わかりやすいし、答えを求めやすい。
- ・ Q&A の量は、これ以上は増やさな

いでほしい。

- ・ 身近なことだけでよい。半分くらいの量でいい。
- ・ 半分くらいの量にして、字をもっと大きくして読みやすくした方がよい。

Q21.リーフレットの配布方法についての意見

- ・ 産婦人科のある病院におくとよい。
- ・ 母親学級に取り入れるとよい。講義とかも一緒にあるとなお良い。
- ・ 「たまごクラブ」「ひよこクラブ」などの雑誌に載せるとよい。

リーフレットの見た目や読みやすさについては、イラストなどが載っていて見やすく、分かりやすいという意見が多かった。しかしながら、本文の字の大きさについては、小さくて読みづらいという意見が多かった。

リーフレットの内容や言葉の表記に関しては、「内分泌攪乱物質」という言葉よりも「環境ホルモン」という言葉を使った方がわかりやすいという意見が多かった。英語を訳さずにカタカナ表記しているものに関しては、意味がわからない、難しく感じるなどの意見が聞かれた。日本語訳をカタカナ表記の隣に明記するなどの工夫が必要であると考えられる。

Q&Aに関しては、量的に少し多いのではないかという意見もあったが、Q&Aの必要性や利便性を強調する人が多かった。リーフレットの配布方法に関しては、妊娠中の女性が手に入れ

やすい形を考えた方がよいということで、産婦人科のある病院や保健所、母親学級などで配布するのが適当ではないかという意見が聞かれた。

6. 行政や研究機関に対する要望

Q22.行政や研究機関に対して要望はあるか。

- ・ 的確な情報を常に流すことを心がけてほしい。
- ・ 国で、番組を作るべき。
- ・ マンガなどを作ってほしい。
- ・ ゲームを作ってほしい。科学館などで、「内分泌攪乱物質」に関するシミュレーションなどがあつたらすごく面白いと思う。
- ・ クイズ番組を作ってほしい。危険を回避するためのゲーム形式のクイズ番組がよい。
- ・ 調査をしている研究機関が、直接、情報を流してくれた方がよい。

Q23.全体の印象として感じたことはあるか。

- ・ 全体的に、難しい。専門用語がいっぱい、さっぱりわからない。
- ・ 専門用語や漢字がたくさん載っていると、見る気がしない。
- ・ 大人が対象でも、小学生レベルの内容で情報提供してほしい。

行政や研究機関に求めることとしては、正確な情報を消費者が必要とする時に、いつでも入手できるような方法を確立してほしいということである。正確な情報であれば、情報が多すぎて

負担になるということではなく、情報開示を進めてほしいということである。

「内分泌攪乱物質」に関しては、科学的な解明が進んでいなくても、経過や状況についての情報提供を望む人が多かった。リーフレットやマスメディアによる情報伝達だけではなく、新しい情報伝達の方法を考え、興味をもって学習できるような工夫をしてほしいということである。

<乳幼児の母親グループのまとめ>

1. 「内分泌攪乱物質」に対する認知

「環境ホルモン」という言葉は、全員知っていたが、「内分泌攪乱物質」という言葉は、知っている人はいなかった。ダイオキシンに関する報道や子供のプラスチックのおもちゃが体に良くないという話を聞いたことがある人は多かった。プラスチック製品は、なるべく避けるようにしているという人もいたが、何も気をつけていない人の方が多いようである。

2. 情報開示に対する意見

情報開示については、科学的に解明されていない問題であっても経過について詳しく知りたいという意見が多かった。完全な情報を提供することは不可能だと思うので、現在、わかっていることを正確に伝えてくれればよいということである。特に、病気との関連性や疑われている物質、食品や子供のおもちゃなどの安全性については、どの程度、解明されているのか進行状況を詳しく知らせてほしいということである。

ある。

「内分泌攪乱物質」の科学的なメカニズムについても知りたいが、映像などを使って、子供でもわかるような簡単な言い回しで説明してほしいという意見が多かった。消費者の調査結果などの情報を提供する場合には、人数が少ないと信用度に欠けるといった意見も聞かれた。

3. 情報開示のメディア選択についての意見と情報入手の経路

情報提供の方法としては、区報などのように冊子を各家庭に一冊ずつ配布するという形が、最も多くの人目に確実にふれる方法ではないかという意見が多かった。妊婦や乳幼児の母親をターゲットとする場合には、産婦人科のある病院や保健所などに冊子を置いておくのが適当なのではないかという意見であった。

テレビや新聞などのマスメディアは、子供の世話を時間にとられて接触する機会が少ない、内容が面白くなければ見ないということから、確実に情報を伝えるのは難しいという意見が聞かれた。インターネットは、興味がないと調べないので、「内分泌攪乱物質」の情報が掲載されていたとしても接触する機会は少ないであろうという意見が多かった。

4. 講義受講後の認知変化と重要性についての認識

「内分泌攪乱物質」問題については、全体的に、難しい問題であるという印

象を受ける人が多かったようである。講義を聞いて、科学的に解明されていないということがわかったので安心が増したという意見はあったが、不安が増したという意見はなかった。

「内分泌攪乱物質」の講義を聞いて、ゴミの分別に気をつけるようにするという人もいたが、その他には、どのような対処行動をとればいいのか明確なことがわからないので、これまでの行動が変化することはないだろうという意見が多かった。「内分泌攪乱物質」問題の重要性に関しては、重要性が低いわけではないが、この問題だけが特別に重要であるという認識は内容である。他の環境問題とも関連していると思うので、総合的に捉えていく必要があるという意見が多かった。

5. リーフレットに関する意見

リーフレットの見やすさや読みやすさに関しては、イラストなどが載っていて見やすい、専門用語もなるべく使わないようにしてわかりやすいという意見が多かった。しかしながら、本文の字が小さいので、読みづらいという意見も多かった。

リーフレットの中で使用されている言葉や表現方法などについては、「内分泌かく乱化学物質」という言葉は難しく、知らない人も多いので「環境ホルモン」という言葉を使ってほしいという意見が多く聞かれた。「リスクアセスメント」「グローバルアセスメント」という言葉に関しても、意味がわからないので日本語訳を表記してほしいとい

う意見があった。「こんなうわさが話題になりました」という部分については、「うわさ」という言葉は信用性に欠ける、「うわさ」よりも真実を知りたい、「うわさ」についての検証をしてほしいという意見があった。

Q&Aに関しては、わかりやすく、理解するのに非常に助けになるということで必要性や利便性を強調する意見が多かった。Q&Aの項目数に関しては、内容を身近な問題に絞り、項目を減らすべきであるという意見が聞かれた。リーフレットの配布方法に関しては、産婦人科のある病院や母親学級でも入手できるようにした方がよいという意見が多かった。

6. 行政や研究危険に対する要望

行政や研究機関に求めることとしては、正確な情報を常に提供してほしいということである。消費者の誤解を生じないような表現で、わかりやすい情報であれば、情報が多すぎて負担になるということはないということである。「内分泌攪乱物質」に関しては、科学的な解明が進んでいなくても、経過や状況についての情報提供を常時提供して欲しいという意見が多く聞かれた。リーフレットやマスメディアによる情報伝達だけではなく、新しい情報伝達の方法を考え、興味をもって学習できるような工夫をしてほしいということである。

2005年2月24日(木)に50歳以上の男女を対象として実施したグルー

プ・インタビューの結果は、以下の通りである。

1. 「内分泌攪乱物質」に関する認知

Q1. 「環境ホルモン」という言葉を以前から知っていたか。

全員、知っていた。

Q2. 「内分泌攪乱物質」という言葉を以前から知っていたか。

全員、知っていた。

Q3. 「環境ホルモン」「内分泌攪乱物質」について、どのような話を聞いたことがあるか。

- ・ 魚のメスがオス化する（テレビ、新聞から）
- ・ 工場からの汚染された排水が、水道に流れて、体に悪影響を与える。（新聞で読んだ）
- ・ ゴミ問題。ダイオキシンについて。
- ・ ダイオキシンが空気中に混じって、人体に悪影響を与える。

Q4. 「環境ホルモン」を意識して、気をつけていたことはあるか。

- ・ 孫がミルクを飲む時に、ガラスの哺乳瓶に変えた。
- ・ ペットのノミ取り首輪が、有害物質が含まれているかもしれないと思ったので、使用するのをやめた。
- ・ カップめんを食べるのを避けた

「環境ホルモン」「内分泌攪乱物質」という言葉に関しては、どちらも以前から知っていたようである。内容につ

いては、魚のメスがオス化するというニュースやダイオキシンの有害性について、テレビや新聞で報道されていたのを見聞きした覚えがあるということであった。「内分泌攪乱物質」を意識して気をつけていたこととしては、ガラス製の哺乳瓶を使用したり、カップめんを食べるのを避けていたりしたという人がいたが、全体的には、「内分泌攪乱物質」を意識して何らかの行動に移している人は少なかった。

2. 「内分泌攪乱物質」の情報開示に対する意見

Q5. 科学的に解明されていない問題であっても、情報を提供してほしいか。

- ・ わかったほうがいい。
- ・ あまり過敏になっても困るから、わかっていることだけ伝えてほしい。
- ・ 知りたいけど、情報過多になっても困るので、ある程度、解明してからでいい。
- ・ 開示が遅くなって被害が拡大したというのでは困るので、早めに情報提供してほしい。
- ・ 消費問題にも関わってくるので、どっちがいいとは言えない。

Q6. 今後、どのような情報を詳しく提供してほしいか。

- ・ カップめんやプラスチック容器の有害性について詳しく知りたい。
- ・ イソフラボンについて。イソフラボンは、体にいいという話は聞くが、悪いという話もあるなら詳し

- く知りたい。
- ・ 子供たちに影響を与えるのかについて。
- ・ 食品やサプリメントの安全性について。
- ・ 医薬品の安全性について。
- ・ メカニズムについて、もう少し詳しく知りたい。
- ・ 環境ホルモンをどういうふうに摂取したら、影響があるのかについて詳しく知りたい。
- ・ わずかな量でも影響が出る可能性があるということについては、詳しく知りたいと思った。
- ・ やってはいけないことを具体的に知りたい。
- ・ ダイオキシン類がどういうものに含まれているのか、どのようにすると発生してしまうのか知りたい。
- ・ どうやったら摂取量を減らすことができるのか。(リーフレット Q&A 13. の情報をもっと詳しく)

Q7.科学的なメカニズムについての情報は提供してほしいか。

- ・ 知るのは、知りたい。

Q8.消費者調査の結果について、詳しく知りたいか。

- ・ 多少は知りたい。
- ・ 興味はある。
- ・ 何万人という調査であれば信用できるが、数が少ないと信用できない。
- ・ グラフなどで示した方がわかりやすい。

- ・ 情報というのは、何でもあった方がよい。知らないうちに汚染されていくのはいや。

Q9.国や厚生労働省の取り組みについて、詳しく知りたいか。

- ・ 男：海外の状況について、教えてほしい。(海外では、こういう物質は、禁止されているとか)
- ・ 無いよりはあった方がいい。

Q10.情報提供にかかるコストを税金でまかなっても構わないか。

- ・ そういうことに、おおいに税金を使ってもらいたい。

「内分泌攪乱物質」の情報開示については、科学的に解明されていない問題であっても、早めに情報提供を行うべきだという意見が多かった。情報は多すぎて困るということはないという意見が聞かれた一方で、消費者が過剰に反応してしまっても困るので、ある程度、科学的に解明されてからの方がいいという意見もあった。

情報提供の具体的な内容としては、食品や医薬品の安全性、イソフラボンについての研究報告など身近なものに対する情報を優先的に提供してほしいということである。「内分泌攪乱物質」の科学的なメカニズムや消費者調査の結果などについては、興味がないわけではないが、積極的に情報を提供してほしいという意見ではなかった。

3. 情報開示のメディア選択について

の意見と情報入手の経路

Q11.情報提供する場合、どのようなメディアが望ましいと思うか。

- ・ 一番、早いのはテレビ。
- ・ 新聞。
- ・ 雑誌はあまり見ない。
- ・ インターネットをする人（男性 2人）。環境ホルモンが身近になれば、検索しないことは無い。
- ・ 区報は、よく見る。（新聞と一緒に配られるので）
- ・ 自分でどこかに取りに行くことはしない。
- ・ 普段、よく行く場所に置いておけばよい。
- ・ 学校教育に取り入れていくべき。小さいうちから、授業で教える。

Q12.普段、健康や環境に関する情報は、どこから入手しているか。

- ・ テレビや新聞。
- ・ 友人、知人（何を食べたらよいか、どんな体操がいいかという話をする）。
- ・ 自分の病気に関する本は、買ってきて読むことがある。
- ・ 週刊誌を買って読む。
- ・ わざわざ何かを買って読むということはない。

Q13.普段、よく見る情報番組は何か。

- ・ 「あるある大辞典」
- ・ 「スパSPA人間学」
- ・ NHKの「ためしてがってん」
- ・ 「たけしの家庭の医学」
- ・ みのもんたのお昼の番組

・ ニュース

情報開示の方法としては、テレビや新聞などが望ましいという意見が多かった。「内分泌攪乱物質」に関するリーフレットを普段良く行く場所に置いておいたり、区報などのように配布したりするのもよいという意見が聞かれた。環境や健康に関する情報番組を見る機会は比較的多く、友人や知人ともよく話題になるということである。

4. 講義受講後の認知変化と重要性についての認識

Q14.講義を聞く前と聞いた後では、環境ホルモンに対する考え方は変わったか。

- ・ 環境ホルモンと環境問題が少し違う問題であることがわかった。
- ・ 不安が増したということはない。
- ・ 少し関心がわいた
- ・ 何がいけないということがはっきりしていないので、行動への影響は無いと思う。
- ・ 危険なものは売らないと思うので、特に気にしない。

Q15.体に悪そうだなと思うものやそう感じる時はあるか。

- ・ 缶の中に残ったもの（時間がたったものは、口に入れないようにしている）。
- ・ 缶コーヒー
- ・ カップめん（体に悪そうだから普段から食べない）。
- ・ 魚のこげ、骨。

- ・ 芳香剤、殺虫剤、インスタントめん。
- ・ かき（貝）
- ・ 金目鯛がうわさになったが、特に、影響は無かった（普段から、そんなに食べていない）。
- ・ 報道されれば、一時的には避ける。すぐ忘れてしまう。
- ・ 報道されても、火を通せば大丈夫だと思って食べてしまう。
- ・ 遺伝子組み換え食品（遺伝子組み換えでないというものを選ぶ）。

Q16.他の環境問題や社会問題と比べて、環境ホルモン問題の重要性は高いと思うか。

- ・ 重要だと思った
- ・ 他の環境問題も大事だし、環境ホルモンも大事
- ・ 昔は無かった問題

Q17.生活が不便になっても、安全だと言われる方を選ぶか。

- ・ 個人で対応してもしょうがない
- ・ 個人個人が気をつけていかないとダメだと思う。
- ・ ゴミの分別もしっかりやっている人とやってない人がいる。

「内分泌攪乱物質」に関する講義を聞いて、不安が増したという意見は見られなかった。今後の行動への影響もないであろうという意見であった。通常の問題とは、少し違う印象をもった人がいたようであるが、「内分泌攪乱物質」問題も他の環境問題と同様、

重要であるという意見が多かった。

5. リーフレットに関する意見

Q18.リーフレットの見た目や読みやすさについてはどう思うか。

- ・ 身近な場所に置いてあれば、読もうと思う。
- ・ 字が小さい。
- ・ わりかし見やすいと思う。
- ・ 「内分泌攪乱物質」という言葉が難しい。「環境ホルモン」という言葉を使ってほしい。
- ・ 「気になる方はお読みください」という表現はいいと思う。

Q19.リーフレットの内容についての意見

(1 ページについて)

- ・ 調査人数が少ない。
- ・ 調査した 60 人が、どういう人かわからない。どうやって選んだか教えてほしい。
- ・ 1000 人位なら、ある程度は信用できる。

(2 ページについて)

- ・ うわさよりも、はっきり分かったことに興味がある。

(3 ページ、4 ページについて)

- ・ わかりやすい
- ・ 図があるとわかりやすい。

(5 ページについて)

- ・ 4 カ国しか載せないのか？
- ・ 英語の意味について、カッコで表